



徴古館報 第44号 令和7年(2025)3月発行



鍋島直大公所用 懐中時計 明治20年代

公益財団法人 鍋島報効会

令和6年度の展覧会

令和6年度は、7月6日より以下の展覧会を開催しました。

7月6日(祝)～11月24日(日) 徴古館 通常展示

開催期間 9時30分～16時(最終日15時) 入館料300円(中学生以下無料)
 月曜休館(月曜日の場合は平日) ※休館日に鑑賞券の入館券は発行できません

江戸時代の約260年にわたり佐賀藩を治め続けた鍋島家。幕末には10代藩主鍋島直正公のもと財政再建や殖産興業、西洋科学技術の積極的な導入が行われ、佐賀藩は一躍雄藩となりました。そして11代直大公の時代に明治維新を迎え、侯爵を授かり、皇室の藩屏となりました。

佐賀藩の歴史
 佐賀藩の歴史を学ぶための展示。藩政の発展や、幕末の改革、明治維新の歴史を学ぶことができます。

佐賀藩の文化
 佐賀藩の文化を学ぶための展示。藩政の発展や、幕末の改革、明治維新の歴史を学ぶことができます。

佐賀藩の美術
 佐賀藩の美術を学ぶための展示。藩政の発展や、幕末の改革、明治維新の歴史を学ぶことができます。

通常展示 スタジオA 本館は以下各館で観覧いただけます(色付の日の曜日は休館日です)

7月	8月	9月	10月	11月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

徴古館 通常展示

徴古館 通常展(令和6年7月6日～11月24日)

江戸時代の約260年にわたり佐賀藩を治め続けた鍋島家。幕末には10代藩主鍋島直正公のもと財政再建や殖産興業、西洋科学技術の積極的な導入が行われ、佐賀藩は一躍雄藩となりました。そして11代直大公の時代に明治維新を迎え、侯爵を授かり、皇室の藩屏となりました。

本展覧会は特定のテーマを設定せず、鍋島家に伝わった様々な時代・分野の歴史資料や美術工芸品を鍋島家の歴史とともにご紹介しました。会期中は資料の展示替えを行いながら、新収蔵品「直大公所用 懐中時計」(表紙写真)をはじめ、過去の展覧会でお客様にご好評だった資料や、これまではあまり展示する機会がなかった資料などもご紹介しました。

来館者からは「鍋島家の歴史が分かりやすく紹介されていたのでよく理解できた」「テーマが決まっている展覧会も面白いが、見た事のなかった展示品や鍋島家伝来品を通した歴史がうかがえて興味深かった」「佐賀市出身だけど、知らないことがたくさんありました」「藩主が娘に宛てた手紙や、宇和島藩主をピクニックに誘った手紙を見て、歴史上の偉人としてではなく、人間味のある一面を見られてほっこりしました」などのご感想をいただきました。



おもな出品資料

象牙バナナ棚飾(9月3日～29日)

鍋島家には皇室からの御下賜品や御遺物などとして、象牙作品が26点伝来しています。本展では会期中に展示替えを行いながら多くの象牙作品をご紹介しました。

本資料はそのうちのひとつで、一筋の皮をむいた、やや熟れかけたバナナを模した置物です。精緻な彫技と色染により、変色した皮の部分や白い果実の繊維の通った質感などを見事に表現しています。13代直泰夫人紀久子様が明治45年(1912)に昭憲皇太后より拝領し、婚礼道具の一つとして鍋島家に伝来しました。



皆様からのご要望にお応えして、約4年半ぶりに展示しました。来館者からは「象牙のバナナが本物かと思うくらいそっくりでびっくりした」「バナナの置物を目当てに来ました。想像よりずっと小さくて、精巧な作りに感動しました」などのご感想をいただきました。



バスル・ドレス(9月18日～10月20日)

「鹿鳴館の華」と謳われた鍋島栄子様着用の夜会服。小袖地をドレスに仕立てた、和洋折衷の他に例を見ない貴重なバスル・ドレスです。小袖地の部分は菊・桜・牡丹・唐団扇模様の刺繍が施されています。前スカートと裾の部分は白サテン地を用い、色とりどりの絹糸による空ビーズやタッセルの飾りが付いています。



「象牙バナナ棚飾」同様、お客様のご要望が多かった資料で、約4年ぶりの展示となりました。来館者からは「栄子様のドレスが華やかで綺麗で見れて良かったです」「繊細なつくりに感激しました」「栄子様のドレスも美しく、着こなされていた様子を思うとうっとりしました」などのご感想をいただきました。

この他、涼し気な縹色の帷子(夏用着物/栄子様所用)や色鮮やかな紅色の打掛など、鍋島家に伝来した着物類も展示替えを行いながらご紹介しました。



「鍋島家の雛祭り」展(令和7年2月8日～3月9日)

今年で25回目を迎える「佐賀城下ひなまつり」の一環として、徴古館では、侯爵鍋島家歴代夫人が愛でたおひなさまをご紹介する恒例の展覧会「鍋島家の雛祭り」を開催しました。往時の雛祭りにならった幅6mと5mの大雛壇を中心に、11代夫人栄子様の次郎左衛門雛や12代夫人禎子様の銀製雛道具、13代夫人紀久子様の有職雛など、約500点の雛人形・雛道具が並びました。

2階の特集展示では今回の佐賀城下ひなまつりのテーマ「花めぐり」にちなみ、鍋島邸を彩った花モチーフの工芸品を展示しました。鍋島邸の食卓を飾った「色絵草花文洋食器」や花が描かれた日本画をはじめ、菊の花・葉・茎すべてが鼈甲製の棚飾りや、夏蜜柑の皮でできた菓子器、夕顔型の花器など「超絶技巧」の作品の数々をお楽しみいただきました。

また、会期中の土・日・祝日にはお箏の音色を楽しむイベントも実施しました。



▲ 鼈甲製菊花鉢植棚飾

新収蔵品紹介

令和6年度、以下の2点の資料が新たに当館収蔵品となりました。

11代 鍋島直大所用 懐中時計

明治20年代頃、横浜の在日商館コロソ商会が日本人向けにスイスで製造させたもので、1分単位の時刻を音で知らせる機構(ミニッツリピーター)が搭載されています。

時計好きであった11代鍋島直大公の所用品であり、裏面には直大公が用いた花菱紋があしらわれているほか、「鍋島直大 自用」という自筆の書付が貼付されている点が特徴です。

鍋島家に代々伝えられ、現在もゼンマイを巻くことで時を刻み続けています。今年度の通常展にて初の展示が叶いました。



▲ 裏面の花菱紋



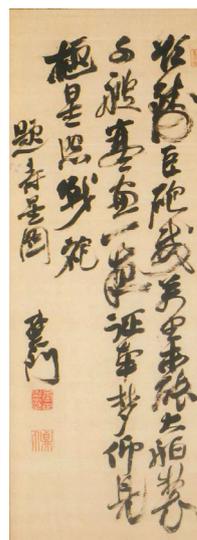
▲ 直大公自筆の書付



▲ 懐中時計内部

10代 鍋島直正筆 漢詩書

オーストラリア進出を構想して書した「次伊達政宗征南詩韻」(当会所蔵)とともに、「巨砲を鑄し大舶を製す」ことが「征南の夢」のもとに構想されたという、直正公の世界に対する視野と気概をうかがうことができる作品です。佐賀藩の歴史のハイライトとして扱われることの多い幕末における鑄砲や造船について、その思想的背景が分かる鍋島直正公自身の書として、今後の活用が広く想定されます。



地域連携

松原公園 第二期整備

徴古館は、平成23年に整備された佐賀市の都市公園「松原公園」内に位置しています。その第二期エリアの拡張整備に向け、前年度までの諸検討を受け、令和6年度は佐賀市の基本構想が策定されるほか、県、市、佐嘉神社、鍋島報効会及び各団体による協議が進められました。

令和7年1月17日には佐嘉神社記念館においてパネルディスカッション「佐嘉神社を中心とした松原エリアの今後の整備に向けて」が開催されました(写真)。各パネラーからは、まちづくりにおける松原地区の重要な位置づけ、神社の将来像、参道の活性化に関する見方が示され、松原エリアで検討が進められている公園整備・佐嘉神社御鎮座100年記念事業・新馬場通り(松原神社参道)再整備という諸事業が互いに相携え一体的に推進する気運が高まりました。



▲ パネルディスカッションの様子

地域連携研究会

佐賀の地域史に携わる博物館や文化財関係機関等による共同の勉強会を令和4年度より継続しており、令和6年度は2回開催しました。

■江戸時代の数学 —そろばんから大砲まで (令和6年7月6日)

通算5回目となった今回は、佐藤賢一氏(電気通信大学教授)を招聘し、①文化財関係者向け研究会「地域史料として見る和算の姿」(於 県立美術館/参加者36名)および②一般向け講演会「江戸時代の数学 —そろばんから大砲まで」(於 佐賀城本丸歴史館/参加者138名)を開催しました。『塵劫記』やそろばん、算木、砲術関連資料などの資料を実際に例に取りながら、和算の基礎や受容の過程、幕末佐賀藩の科学技術との関わり等について学ぶことができました。



■幕末維新期の佐賀藩とオランダの技術交流 (令和6年10月28日)

塚原東吾氏(神戸大学 国際人間科学部 教授)の来佐を機に特別編として開催。オランダに派遣された佐賀藩士の動向に着目し、蒸気軍艦・日進丸の建造に関する日本とオランダ双方の史料を中心的に取り扱う講演会を行いました。

このほか、佐賀大学や近隣の博物館との共同研究「幕末明治期の佐賀藩海外渡航者の研究」や、國學院大学の科学研究費助成事業(基盤研究B)「戦前期東京における住宅開発と生活空間の変容—東京府渋谷区を事例に一」にも協力をしています。

研究助成

今年度より、当会の援助団体である佐賀鍋島伝承遺産顕彰会の設立趣旨により、鍋島家に関わる佐賀の歴史研究に対して助成をする「特別研究助成」を新設しました。

【4月3日】授与式

徴古館において授与式を執り行いました。「特別研究助成」「一般研究助成」は2名の方が、「青少年活動助成」は佐賀市少年少女発明クラブ・佐賀市立川副中学校・こどものまち「ミニさが」実行委員会(佐賀大学教育学部)・佐賀県立致遠館高等学校(科学部)の4件が採択されました。

【6月2日】第23回研究報告会

研究報告会では令和5年度に助成を受けた論文コース3名により、佐賀藩の種痘事業や近代佐賀県の衆議院選挙、戦中～終戦直後の佐賀師範学校における美術教育についての報告がありました。また、探究活動コースでは西九州大学短期大学部幼児保育学科や佐賀市立東与賀中学校、佐賀市少年少女発明クラブの3グループによる報告があり、34名が聴講しました。令和5・6年度の研究・活動成果を掲載した報告書は令和7年度に発行予定です。



反射炉まつり50周年

幕末に鉄製大砲を铸造した反射炉事業の功績を後世に伝えようと、昭和17年に肥前史談会により築地反射炉跡(佐賀市)に記念碑が建立され、同25年に鍋島報効会が受贈し現在に至ります。

昭和50年からは工業振興と先人顕彰のため記念碑周辺での「反射炉まつり」が開催され(佐賀県工業連合会主催)、令和6年に50回目を迎えました。その記念事業として、同会に記念碑の補修や周辺環境の整備を実施していただき、鍋島報効会では、戦前期以降、諸団体による地域での顕彰のあゆみをまとめた「佐賀反射炉顕彰史」と題する小冊子編集のお手伝いをさせていただきました。



徴古館報 第44号 令和7年(2025)3月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX 0952-23-4200

MAIL info@nabeshima.or.jp

URL https://www.nabeshima.or.jp